

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年1月27日

協議会名: 粟島浦村地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
粟島浦村	県道ルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻表作成において、診療所通院や定期的な体操会に活用しやすいように運行時間を設定した。</li> <li>・粟島観光協会ホームページへ掲載する時刻表データ提供を早期に実施し、利用者が早い時期に確認できるようにした。</li> </ul>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年9月末時点の状況を記載する公共交通アンケート調査結果において、初めて「バスの乗り方の100%周知」目標を達成した。</li> <li>・住民利用者が2,266人であり、目標の「3,500人利用」は達成できなかった。高齢化により地区間移動がなくなったり、施設に入る方が増えたりしたのが原因であると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直近4年の住民利用者数は2,000人台となっており、目標の3,500人は実現が非常に困難である。努力すれば達成が可能な難易度の目標を立てるようにする。</li> <li>・バスを利用する目的となっている次の2か所の改善を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)温泉利用 温泉事業と協働し、住民が利用しやすい環境への改善を検討する。</li> <li>(2)買い物利用 買い物をするときの停留所の位置が不便であるとの住民の声があり、停留所の位置改善を検討する。</li> </ul> </li> </ul>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年1月27日

協議会名:	粟島浦村地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>(1)事業の目的  粟島浦村は、新潟市の北方約63km、村上市岩船港の北西約35kmの日本海に浮かぶ面積9.78km<sup>2</sup>、周囲22.3km、人口370人(平成27年国勢調査)の孤立小型離島で、島のほとんどを山地・丘陵地が占め、漁業及び観光が基幹産業となっている。村内には、粟島と本土村上市岩船港を結ぶ定期船乗り場(粟島港)、村役場、小中学校を始めとする主要な公共公益施設が立地する東海岸の内浦地区と、山地を挟んで西海岸に位置する釜谷地区の2集落がある。  また、内浦地区の粟島港と本土村上市岩船港を結ぶ唯一の粟島離島航路は、定期航路として高速船とフェリーの2隻が就航している。本村は無医村のため、医師の治療を必要とする住民は本土の医療機関に通院することになり、粟島離島航路は重要な地域間交通となっている。  こうした離島としての特性をもった本村の「定住環境の確保」及び「産業振興の推進」に向けた地域づくりの課題に対応し、住民や観光客の意向を把握・反映させた離島航路、陸上交通について総合的な公共交通という視点から、「粟島浦村地域公共交通協議会」における協議を経て平成21年3月、『粟島浦村地域公共交通総合連携計画』を策定した。  本事業は『粟島浦村地域公共交通総合連携計画』に位置づけた地域公共交通計画のうち、粟島離島航路と接続する島内及び本土村上市中心部における陸上交通の確保維持を推進することを目的とする。  (平成28年度から本土村上市中心部における陸上交通は、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用しておらず、補助金評価対象には含まれない。)</p> <p>(2)事業の必要性  1)島内交通の確保維持  本村の島内は、公共交通空白地域で民間のタクシー会社もない。そのため、釜谷地区からの通学のために運行していたスクールバスを、余裕がある範囲内で住民全体が利用していた。しかし、こうした状況は少子高齢化が顕著な住民の日常生活に、深刻な影響を与えていくと懸念されていた。また、観光客も村内のキャンプ場等への移動に苦慮しており、本村の観光振興を図る上でのネックともなっていた。  このような状況を背景として、地域公共交通協議会での協議を経て、市町村運営有償運送によるコミュニティバスの実証運行を平成21年度より3カ年実施した。これは、定期航路と接続し、島内移動手段になるとともにスクールバスも兼ねた唯一の公共交通機関となる。住民、観光客の利用意向は高く、本格運行として継続していくことが望まれ、平成24年度から本格運行を開始した。</p> <p>2)岩船港～村上市中心部間交通の確保維持  結節点である岩船港と、駅及び病院等公共公益施設や商業施設が集積する村上市中心部を結ぶ交通は、民間バス1路線と民間タクシーがある。しかし、バス路線は岩船港直近の停留所が約1km離れているうえ1日の運行本数が少なく、高齢者の多い住民や鉄道利用観光客(観光客の約1割弱)のほとんどがタクシーを利用し、船賃とあわせて高額な交通費が負担となっている。  これを軽減するため、地域公共交通協議会での協議を経て、岩船港で定期航路と接続して村上市中心部を結ぶ乗合タクシーの実証運行を平成21年度より3カ年実施した。住民を始めとして利用意向は高く本格運行として継続していくことが望まれ、平成24年度から本格運行を開始した。  (平成28年度から本土村上市中心部における陸上交通は、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用しておらず、補助金評価対象には含まれない。)</p>